

# 山隈 瑞樹 殿

## 2018 年度 北川学術賞 推薦状

山隈瑞樹氏は、昭和 54 年（1979 年）に国立熊本電波工業高等専門学校電波通信学科を卒業され、同年、外務省に入省し、外務本省と在外公館との通信業務に従事されました。

その後、出向人事により、平成元年（1989 年）に旧労働省産業安全研究所（現独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所）に入所され、産業安全に関する爆発・火災の原因となる静電気放電着火に関する基礎及び応用研究に、長年にわたり従事されました。その間、多くの学術的業績を挙げてこられ、平成 18 年度には茨城大学より「静電気に起因する爆発・火災の発生機構に関する実験的研究」によって博士（工学）の学位を授与されるとともに、平成 18 年度「ジルコニウム粉の静電気危険性－帯電および着火特性に関する実験的考察－」、平成 24 年度「原油タンク清掃時の火災原因に関する一考察－絶縁性被覆を有する清掃用具の静電気帯電危険性－」と二度にわたり、安全工学会論文賞を受賞されるなど、その研究活動は誠に目覚ましいものでありました。加えて、それら労働災害防止に関わる研究によって得られた知見を労働災害の調査に活用し、幾多の困難な災害原因の究明を行い、画期的な再発防止技術を提案されるなど、労働安全の質的向上に大いに貢献されました。

また、簡単な器材を用いた体感的な教育手法を開発し、産業現場への安全技術の普及にも尽力してこられました。氏自らの実演実験でも示されるとおり、その教育手法では静電気が蓄積され、放電・着火に至る過程が実に平易に理解できる内容になっております。

さらに、静電気対策、爆発防護装置、防爆電気機器等に関する法令、規格、指針、技術基準等の制改定にも主導的立場で取り組んでこられ、また、IEC TC101 のエキスパートとして静電気用品の国際規格の作成作業にも長年係わっておられます。平成 29 年に独立行政法人労働者健康安全機構労働安全衛生総合研究所を退職され、現在、これら取り組みの実践の場として公益社団法人産業安全技術協会の常務理事として、今なおご活躍の場を広げていらっしゃいます。

以上、安全工学に関する研究活動、学会活動、社会的活動における業績と貢献は顕著であり、産業界における学術探求の姿として規範となるべきものであることから安全工学会の北川学術賞にふさわしいものであります。



略歴：

1979 年 国立熊本電波工業高等専門学校 電波通信学科卒業

1979 年 外務省入省

1989 年 労働省産業安全研究所（現労働安全衛生総合研究所）入所

2004 年 同 電気安全研究グループ 上席研究員

2014 年 同 国際情報・研究振興センター センター長

2016 年 同 電気安全研究グループ 部長

2017 年 公益社団法人産業安全技術協会常務理事

現在に至る

学位：博士（工学）（2006 年 茨城大学）

専門分野：静電気による災害・障害、防爆電気設備、粉じん爆発

所属学会：安全工学会、静電気学会